

◆漁業振興策について

壇上質問

錦江漁協で栽培型のあさり試験養殖が開始されています。テレビでも何回も放送され、多くの期待がある事が伺える。漁協の方々には安定した収入に繋がるとして大きな期待を持っている。振興局の主旨は『あさは水質改善の働きがあり、錦江湾の赤潮被害軽減に繋がり、かつ収益性が高い』とコメントした。しかしながら場所によって育ち方が異なる、重労働克服が課題との声もある。漁協にとって後継者不足、安定収入の確保などの課題も多い事。

農林水産業ビジョンで栽培漁業の推進が謳われている。平成 31 年の数値目標としてアサリ 17 トンの収穫の記載までである。漁協関係者、市の意気込みが伝わって来る。このアサリの栽培型試験養殖について霧島市が果たした役割、今後の支援策について問う。

農林水産部長答弁：

錦江漁業協同組合が実施しているアサリの養殖事業は、平成 25 年 6 月から始良市の錦海漁協が養殖試験を開始し、その試験結果が良好だった事から、自主事業や水産多面的機能発揮対策事業を活用し、試験を開始した。市も当初よりモニタリング調査に立ち会うとともに県外研修で情報収集を行うなど、連携した形で進めてきた。

このような中、試験結果は良好であり、養殖事業の新規事業化に向け、漁業者の期待、意欲が高まっている。今年度、同漁業協同組合は、始良地区水産業改良普及推進協議会の予算を活用して、効率的な養殖技術の確立を目指しているところであり、また、今年 9 月を目処に、アサリ養殖の区画漁業権を取得される見込みである。

市としても、新規事業化にあたって、経営が軌道にのり、所得向上につながるよう必要な支援を行って行く。

自席質問

Q：試食会用収穫時の画像である。全くアサリのいなかった袋の中にたくさんアサリが育っている事に感動した。霧島市の農林水産業ビジョンの中にアサリの数値目標として 17 トンの記載がある。算定根拠は？

林務水産課長：アサリ養殖は錦海漁協：10 名、錦江漁協：18 名、福山漁協：5 名、計 33 名が取組む。1 名約 52 万円の所得向上を見込む。一人当たり 500 袋（1.5Kg）、約 750Kg、23 名を掛けて 17.25 トンとした。

Q：この事業に錦海漁協も含まれるのか？

農林水産部長：算定根拠は浜の活力再生プランが昨年 12 月、水産庁で承認された。錦江漁協の林組合長が始良地区の水産業協議会の会長という事で、このプランを水産庁に提出した。このプランは漁業者の所得向上、5 年間で 10%向上させる目標がある。その中での試算である。霧島市関係では錦江漁協：18 名、福山漁協：5 名の 23 名である。結果 17 トンになった。

Q：現在のアサリの相場を認識しているか？ 鹿児島市場、スーパーなどの。

林務水産課長：調べて後ほど回答する。

Q：私の調査では鹿児島市場で高値：1,230 円、中値：530 円、安値：300 円程度／1 Kg

スーパーでは 100g 当たり 80 円～120 円くらいで売られている。

先ほどの 17 トンでどの程度の収益が見込まれるか？

農林水産部長：先述の試算では一人当たり 500 袋、1.5kg、単価は 800 円と見込んでいる。一人当たり 60 万円（経費 8 万円）となる。振興局の主旨の話では『価格が今後の課題、量は採れるだろう、アサリだけを専業とするには無理がある。複合経営の中の一環として考えておくべきだろう。』

Q：秋には漁業権が設定され、出荷が始まる。湾奥アサリのブランドを確立し出来るだけ高い価格で販売できる事が望まれるが市はどのような対応をとるか？

林務水産課長：錦江漁協について平成 28 年度は県の補助事業である『浜の活力支援事業』の導入を目

指している。砂浜を走行可能な運搬車の購入、アサリの選別作業を効率的に行う『ふるい』の購入、砂抜きを目的とした蓄養丸かご軽石の購入が予定されている。市としては経営が軌道に乗り安定が図られるように支援する。

Q：新聞報道、テレビ報道が複数回なされている。湾奥アサリの動向について市民の方々に聞いても知らない人が多い。提案します。湾奥アサリのブランド確立の為にポスター作成とか、市の広報誌へ掲載とかが必要では？

林務水産課長：アサリの販売促進対策として、県内での地産池消を促進し、特産化を図る為の飲食店への販売拡大等が考えられる。錦江漁協の計画に沿った形で支援を行いたい。

Q：鹿児島市場では湾奥で生産されたアサリと言う事で高い価格での取引が可能であろうと聞く。当初の出荷量は少ないと思う。特定のスーパー、販売所の対応となろう。これを観光の材料として使うとかの構想は無いか？

農林水産部長：所得向上の為には売る事が問題になる。昨年始良地区の水産業の協議会の中で研修に行った。アサリを食べさせる所にも行った。そういった所は観光も一緒にやっている。今後どのような形で、ただ市場へ出すだけではなく、地元で消費する方法とか考えて行きたい。

Q：漁協でも網の中から漏れ出した卵が海辺に定着し、下井の海岸でアサリが採れる状況になろうかと思う。このような事も漁協は期待している。浜が綺麗になる。現在は貝を撒いてもエイが食べる、水は綺麗であるが、海底土は綺麗ではない。浜の浄化への期待が大きい。このような方策に当初からガイド、指導をされた林務水産課に対し、すばらしいと評価する。